



「共に学び、共に暮らし、共に生きる」

鳥取県教育委員会事務局特別支援教育課 指導主事 吉岡誠人

本県では、共生社会、すなわち誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会の形成に向け、その基礎となる特別支援教育の充実に取り組んでいます。その取り組みの1つとして共生社会の実現に向け、地域とのつながりを大切にした学習活動に取り組んでいる県内特別支援学校の実践を紹介します。

～認め合い自分の思いを表現する心を高める教育の実践～【皆生養護学校】

自分の良さ、友だちの良さを認め、大切にすることを養うことや「よりよく生きる」ために、自分たちの人間関係や暮らしを豊かにしていこうとする意欲や態度と共に、他者を思いやる心を育てることを目標に、地域ふれあい交流や近隣地域校との交流及び共同学習を行っています。

地域ふれあい交流では、学校周辺の公民館と全校幼児児童生徒がバルーンや手遊び、ポッチャやダンスなどを一緒に楽しみました。近隣地域校との交流及び共同学習では学部ごとに取り組んでいます。小学部では、風船はこびバレーや○×クイズ等の活動を行い、両校の児童に笑顔が溢れる交流となりました。中学部では、事前学習で考えたポッチャクイズを出したり、出場したポッチャ甲子園について話をしたりしながら、生徒間でのきずなを深めることができました。高等部は近隣地域校と混合チームを組んでポッチャの試合をしたり、近隣地域校が企画したゲームをしたり、eスポーツ交流を行ったりする等、同年代で活動する楽しさやお互いに相手のことを考えながら関わることの大切さを感じました。

交流内容や参加方法等を検討することで、個々の実態に応じた交流を行うことができ、自分たちなりの方法でどのように相手に伝えていくのかを試行錯誤しながらより深く考え、人と触れ合ったり関わったりする楽しさを感じることができました。また、児童生徒の目線で地域防災について地域の公民館と意見交換を行うこともしています。



～出張カフェ～【琴の浦高等特別支援学校】

地域交流カフェに出向き、様々な人と交流することを通して、実践的に働く力やコミュニケーション能力を育成することや接客技術を高めることをねらいとして出張カフェに取り組んでいます。

個の取り組みを通じて、地域には、御高齢の方が集まる場があることを知る機会となっています。また、御高齢の方だけでなく、聴覚や肢体に不自由がある方等、いろいろな方がおられることも体験的に学んでいます。「誰もが楽しめるには・・・」と、相手の目線に立ってレクリエーションの内容を工夫しています。また、普段行っている「ことカフェ」では学ぶことができない「雑談する力」を養うことができ、しゃべることに自信がついたり、「次もまた!」という意欲につながったりしています。

最近では、公民館の担当の方が他の活動と同じ時間帯に出張カフェを開催し、少しでもお客様を増やそうとしてくださっています。

生徒の学習効果をあげるためにも、地域に貢献するためにも、今後もより積極的に地域に発信し、出張カフェの知名度を上げながら、互いを尊重し合いながら関われる場や機会の提供に取り組んでいきます。



共生社会の実現に向けては、障がいのある子どもと障がいのない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指し、それぞれの子どもが、授業内容が分かり、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に着けていけるような視点が大切にされており、加えてそのための環境整備が必要とされています。

鳥取県では、特別支援教育推進にかかる基本理念として、「共に学び、共に暮らし、共に生きる」を合い言葉に、特別支援教育の体制整備を進めています。ICT 機器の充実や活用等が進んでいますが、人も重要な環境のひとつです。地域とのつながりを大切とした取り組みを通じて、自分らしさの確立や相手を大切にする心の育成を進めています。